

博士学位論文審査要旨

2018年1月24日

論文題目： Evolving from Multicultural to Intercultural Education in the Prospect of Sustaining Social Cohesion in the Small Island Developing State: A CASE STUDY OF THE EDUCATION SYSTEM IN MAURITIUS

(和訳)小島嶼の発展途上国において、社会的団結を維持するという展望のもとでの、多文化教育から異文化間教育への発展
：モーリシャスの教育システムの事例研究

学位申請者： Jabeen Bibi SOOBRAITY

審査委員：

主査：	グローバル・スタディーズ研究科	教授	内藤 正典
副査：	グローバル・スタディーズ研究科	教授	中西 久枝
副査：	グローバル・スタディーズ研究科	教授	松久 玲子

要 旨：

本論文において、Jabeen Bibi Soobraty氏は、小島嶼・発展途上国（SIDS）であるモーリシャスを例に、多文化主義教育(multicultural education)の限界を指摘したうえで、異文化間教育(intercultural education)の必要性を明らかにし、その実現のために必要な国家カリキュラムの策定と教員養成とは何であるのかを論じた。同氏の問題意識は、モーリシャスにおける民族、宗教構成が極めて複雑であることに基づいている。英国とフランスの植民地統治時代に移住したインド系住民（67%）およびアフリカ系住民（28%）、さらに中国系（3%）、フランス等からのヨーロッパ系住民（2%）が主要な民族構成である。さらにインド系住民のなかでも、宗教別構成がヒンドゥー(総人口の48%)、ムスリム（総人口の17%）、仏教徒など多岐にわたり、現在までさまざまな民族、宗教が混在した状況にあることが、教育を通じて共生の実現を図ろうとする著者の研究動機の根幹をなしている。

本論文は全体で259ページから成り、以下の構成で書かれている。第1章では研究対象としたモーリシャスが、国土面積、人口規模において小規模な島国の発展途上国であり、17世紀以来、オランダ、フランス、英国による植民地統治の歴史を経たことにより、民族構成、宗教構成がきわめて複雑な社会となっていることが詳述されている。第2章では先行研究のレビューを行い、国民創生のための同化主義の限界から多文化教育の必要性、さらに多文化教育だけでは社会の多様性を受容することは可能であっても、相互理解に立脚する共生は困難なことを欧米諸国の例を基に論じた。第3章ではモーリシャスにおける多文化社会の実態と小島嶼・開発途上国における異文化間教育の可能性を論じている。世界の小島嶼・発展途上国に共通する社会問題を論じた後、モーリシャスがオランダ統治、フランス統治、英国統治を経て独立し、その間に様々な人びとが移住したことによる社会の多様化の歴史を詳細に記述し、国民形成のための教育を論じるにあたって必要な知見を十分に示した。第4章においては、モーリシャスにおける国民アイデンティティの形成、民族的多様性、社会的調和のそれぞれについて教育制度が果たした役割に焦点を当て、主として初等・中等教育におけるカリキュラムの内容と実践、教師教育の実態をSoobraty氏自身の実態調査に基づいて論じた。ここでは、学校教育を通じて、多文化教育に加えて異文化間教

育を実践することの必要性を豊富なデータを基に論じている。第5章では、モーリシャス教育省と国立教育研究所を通じて小学校、中学校教員候補者に対し実施したアンケートをもとに多文化社会への認識の実態を詳述した。ここでは、すでに実践されてきた多文化教育の効果を測定することに焦点を当てている。最終章の第6章はモーリシャスの教育に対する提言の形で締めくくられている。小島嶼・発展途上国における異文化間教育のプラクティショナーを目指す Soobratty 氏は、本論文のまとめるにあたって、多文化状況を受容してきたモーリシャスのこれまでの教育制度が実践的には多文化教育であったことをふまえたうえで、しかしながら、多様な文化の存在を承認するだけでは将来の共生には不十分であることを論じた。とりわけ、21世紀の現在、小島嶼・発展途上国にも押し寄せるグローバリゼーションは、ともすれば多様な文化を単位とする分裂や衝突をもたらす危険があるという氏の指摘は説得的である。

最終審査では同氏による各章の論点報告の後、質疑応答が行われた。論文全体に対して、多文化教育の限界の指摘は説得的であった反面、氏の主張する異文化間教育の現場での実践がどのようなものであるのかが、いまだ政策として実現していないために論旨の説得力に比べて挙証が十分になされなかったことが指摘された。しかしながら、異文化間教育の有効性を緻密な調査をもとに明らかにしようとした Soobratty 氏の目的は十分に達されたと判断する。

よって審査委員一同は、本論文が博士（グローバル社会研究）（同志社大学）の学位を授与するにふさわしいものであると認める。

総合試験結果の要旨

2018年1月24日

論文題目： Evolving from Multicultural to Intercultural Education in the Prospect of Sustaining Social Cohesion in the Small Island Developing State: A CASE STUDY OF THE EDUCATION SYSTEM IN MAURITIUS

(和訳)小島嶼の発展途上国において、社会的団結を維持するという展望のもとでの、多文化教育から異文化間教育への発展
：モーリシャスの教育システムの事例研究

学位申請者： Jabeen Bibi SOOBRATTY

審査委員：

主査：	グローバル・スタディーズ研究科	教授	内藤 正典
副査：	グローバル・スタディーズ研究科	教授	中西 久枝
副査：	グローバル・スタディーズ研究科	教授	松久 玲子

要 旨：

Jabeen Bibi Soobratty 氏に対する総合試験は2018年1月16日（18時25分～19時55分）に実施された。

専門分野に関して、教育学、政治学、多文化共生論の各領域から試問が行われ、同氏はいずれも的確に答えた。

研究に必要な語学試験に関しては、同氏がフランス語、英語、アラビア語を用いて研究を遂行したことから、十分な能力をもつと判断された。

よって、総合試験の結果は合格であると認める。

博士學位論文要旨

論文題目： Evolving from Multicultural to Intercultural Education in the Prospect of Sustaining Social Cohesion in the Small Island Developing States : A CASE STUDY OF THE EDUCATION SYSTEM IN MAURITIUS

(小島嶼の発展途上国において、社会的団結を維持するという展望のもとでの、多文化教育から異文化間教育への発展：モーリシャスの教育システムの事例研究)

氏名： Jabeen Bibi Soobratty

要旨：

The purpose of this study is to examine the progression of Multicultural to Intercultural Education in the prospect of sustaining social cohesion in one of the Small Island Developing States, namely Mauritius. Multicultural and Intercultural Education are two major educational pedagogies that came into existence in multicultural societies. Both concepts share many characteristics, but their outcomes are different. Both share the suffix, 'culture' which can be defined as a set of customs, beliefs, values and lifestyles shared by a particular group of people. Multicultural education fosters the understanding of the various cultural groups, and Intercultural Education promotes positive interaction between these diverse cultural groups.

The literature review analyzed the emergence and progression of the two pedagogies while focusing on similarities and differences between the two. The purpose of the case study is to explore the implementation of the practices of Multicultural and Intercultural education as part of fostering social cohesion in Mauritius. Qualitative data was collected through interviews and a survey which has been conducted to 300 trainees at the Mauritius Institute of Education to examine and analyze their perceptions of Multicultural and Intercultural Education. The study will enable to gain insight on the teacher-trainees understanding of both pedagogies and how it is incorporated in their training and practices as well as to measure their intercultural competences. A content analysis of the National Curriculum Framework (NCF), Teacher Training Program and educational report were also conducted. The results from the research will generate a recommendation for the field of teacher-training which will suggest combining both multicultural and intercultural pedagogies to prepare teachers as the advocate of 'social cohesion' based on the theoretical framework of Allport and Vygotsky.

The research is divided into six chapters. Chapter 1 introduces the setting of the research and provides an overview of the research methodology. Chapter 2 discusses the body of literature available.

Chapter 3 introduces Mauritius as a multicultural society and the emergence of its educational system. Besides this chapter highlights the vulnerabilities of the Small Island Developing States (SIDS) and focuses on the possibilities of implementing Intercultural education in SIDS. Chapter 4 analyses the NCF, the Teacher Training Program and the report on the Situation Analysis of Education for Sustainable Development at School Level and the structured interviews. Chapter 5 presents the empirical data. This chapter attempts to present the data obtained from the survey which was conducted at the M.I.E. Chapter 6 will lead to the analysis of the data obtained and recommendations will be made in relation to the drawbacks brought to light through the analysis chapter. Finally, a conclusion will be provided at the end of the research.